

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	運動学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	夜間部2年	学期	前期	教室名	902教室・機能訓練室
担 当 教 員	屋敷 健太				
実務経験と その関連資格	理学療法士として、大学病院3年、リハビリテーション病院5年、訪問看護ステーション3年の合計11年間勤務。 ICUなどの超急性期～生活期のリハビリテーションを経験。通算症例数は1000症例以上。 多種多様な症例や0歳～100歳のリハビリテーションを経験。 『運動学』はリハビリテーションにおいて必要不可欠であり、バイオメカニクスや解剖学・生理学などの基礎的な知識に加えて、臨床に必要な知識・技術を補うために整形外科教授との勉強会や理学療法士が開催する院内・院外の講習会などに参加。				
《授業科目における学習内容》					
目標①:運動器の障害を理解するために必要な、人体の関節運動を理解できる。 目標②:各関節の正常運動について、骨・関節・靱帯・筋・神経の働きを含めたメカニズムを説明できる。					
《成績評価の方法と基準》					
小テスト評価35%:大きな単元終了ごとに小テストを実施。その点数の50%を定期試験に加算する(7単元10点満点＝35点分) 定期試験評価65%:すべての範囲の試験を実施。65点満点とする。 最終評価:上記2つの点数の合計が60点以上を合格とする。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
Donald A. Neumann 原著, カラー版筋骨格系のキネシオロジー原著第3 版, 医歯薬出版, 2013 年 中村隆一他, 基礎運動学第6 版, 医歯薬出版(株), 2003 年					
《授業外における学習方法》					
その単元の内容の解剖分野を復習しておくこと。 前回の授業内容を事前に確認した上で、授業に臨むこと。					
《履修に当たっての留意点》					
授業への積極的な参加。教科書を読んで理解しようとする姿勢。グループワークと講義の切り替え。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	運動学の概要が理解できる。	PC・PP 骨模型・テープ	復習:関節包内運動	
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション、運動学の基礎、関節包内運動			
第2回	授業を通じての到達目標	肩関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習:肩関節の骨・関節・靱帯の名称	
	各コマにおける授業予定	肩関節1:関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則			
第3回	授業を通じての到達目標	肩関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習:肩関節の骨・関節・靱帯の名称の暗記	
	各コマにおける授業予定	肩関節2:関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則			
第4回	授業を通じての到達目標	肩甲上腕リズムについて学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	復習:肩甲上腕リズム	
	各コマにおける授業予定	肩関節3:肩甲上腕リズム			
第5回	授業を通じての到達目標	肩関節の筋について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習:肩関節の筋	
	各コマにおける授業予定	肩関節4:筋と関節の相互作用			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	肘関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習：肘関節の骨・関節・靱帯の名称
	各コマにおける授業予定	肘関節1：関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則 肩関節小テスト		
第7回	授業を通じての到達目標	肘関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	復習：関節包内運動、凹凸の法則
	各コマにおける授業予定	肘関節2：関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則		
第8回	授業を通じての到達目標	肘関節の筋について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習：肘関節の筋
	各コマにおける授業予定	肘関節3：筋と関節の相互作用		
第9回	授業を通じての到達目標	手関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習：手関節の骨・関節・靱帯の名称
	各コマにおける授業予定	手関節1：関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則 肘関節小テスト		
第10回	授業を通じての到達目標	手のアーチ等について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	復習：手のアーチ、手根管、テノデーシスアクション
	各コマにおける授業予定	手関節2：手のアーチ、手根管、テノデーシスアクション		
第11回	授業を通じての到達目標	手の筋について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習：手関節の筋
	各コマにおける授業予定	手関節3：筋と関節の相互作用		
第12回	授業を通じての到達目標	上肢筋についての口頭試問	配布資料	予習：筋の起始停止・支配神経髄節の暗記
	各コマにおける授業予定	運動方向別に筋を暗記する。 上肢筋の起始停止・支配神経髄節を暗記する。		
第13回	授業を通じての到達目標	上肢筋についての口頭試問	配布資料	予習：筋の起始停止・支配神経髄節の暗記
	各コマにおける授業予定	運動方向別に筋を暗記する。 上肢筋の起始停止・支配神経髄節を暗記する。		
第14回	授業を通じての到達目標	股関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習：股関節の骨・関節・靱帯の名称
	各コマにおける授業予定	股関節1：関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則 手関節小テスト		
第15回	授業を通じての到達目標	股関節のアライメントについて学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	復習：股関節のアライメント
	各コマにおける授業予定	股関節2：股関節のアライメント		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	運動学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	夜間部2年	学期	前期	教室名	902教室・機能訓練室
担 当 教 員	屋敷 健太				
実務経験と その関連資格	理学療法士として、大学病院3年、リハビリテーション病院5年、訪問看護ステーション3年の合計11年間勤務。 ICUなどの超急性期～生活期のリハビリテーションを経験。通算症例数は1000症例以上。 多種多様な症例や0歳～100歳のリハビリテーションを経験。 『運動学』はリハビリテーションにおいて必要不可欠であり、バイオメカニクスや解剖学・生理学などの基礎的な知識に加えて、臨床に必要な知識・技術を補うために整形外科教授との勉強会や理学療法士が開催する院内・院外の講習会などに参加。				
《授業科目における学習内容》					
目標①:運動器の障害を理解するために必要な、人体の関節運動を理解できる。 目標②:各関節の正常運動について、骨・関節・靱帯・筋・神経の働きを含めたメカニズムを説明できる。					
《成績評価の方法と基準》					
小テスト評価35%:大きな単元終了ごとに小テストを実施。その点数の50%を定期試験に加算する(7単元10点満点＝35点分) 定期試験評価65%:すべての範囲の試験を実施。65点満点とする。 最終評価:上記2つの点数の合計が60点以上を合格とする。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
Donald A. Neumann 原著, カラー版筋骨格系のキネシオロジー原著第3 版, 医歯薬出版, 2013 年 中村隆一他, 基礎運動学第6 版, 医歯薬出版(株), 2003 年					
《授業外における学習方法》					
その単元の内容の解剖分野を復習しておくこと。 前回の授業内容を事前に確認した上で、授業に臨むこと。					
《履修に当たっての留意点》					
授業への積極的な参加。教科書を読んで理解しようとする姿勢。グループワークと講義の切り替え。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	授業を通じての到達目標	股関節の筋について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習:股関節の筋	
	各コマにおける授業予定	股関節3:筋と関節の相互作用			
第17回	授業を通じての到達目標	膝関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習:膝関節の骨・関節・靱帯の名称	
	各コマにおける授業予定	膝関節1:関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則 股関節小テスト			
第18回	授業を通じての到達目標	膝関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習:膝関節の骨・関節・靱帯の名称の暗記	
	各コマにおける授業予定	膝関節2:関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の法則			
第19回	授業を通じての到達目標	スクリーホームムーブメントについて学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	復習:スクリーホームムーブメント	
	各コマにおける授業予定	膝関節3:スクリーホームムーブメント			
第20回	授業を通じての到達目標	膝関節の筋について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習:膝関節の筋	
	各コマにおける授業予定	膝関節4:筋と関節の相互作用			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第 2 1 回	授業を通じての到達目標	足関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習：足関節の骨・関節・ 靱帯の名称
	各コマにおける授業予定	足関節1：関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸 の法則 膝関節小テスト		
第 2 2 回	授業を通じての到達目標	足関節について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習：足関節の骨・関節・ 靱帯の名称の暗記
	各コマにおける授業予定	足関節2：関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸 の法則		
第 2 3 回	授業を通じての到達目標	足部のアーチについて学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	復習：足部のアーチ
	各コマにおける授業予定	足関節3：足部のアーチ		
第 2 4 回	授業を通じての到達目標	足関節の筋について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習：足関節の筋
	各コマにおける授業予定	足関節4：筋と関節の相互作用		
第 2 5 回	授業を通じての到達目標	下肢筋についての口頭試問	配布資料	予習：筋の起始停止・支 配神経髄節の暗記
	各コマにおける授業予定	運動方向別に筋を暗記する。 下肢筋の起始停止・支配神経髄節を暗記する。		
第 2 6 回	授業を通じての到達目標	下肢筋についての口頭試問	配布資料	予習：筋の起始停止・支 配神経髄節の暗記
	各コマにおける授業予定	運動方向別に筋を暗記する。 下肢筋の起始停止・支配神経髄節を暗記する。		
第 2 7 回	授業を通じての到達目標	脊柱について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習：脊柱の骨・関節・靱 帯の名称
	各コマにおける授業予定	脊柱1：関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の 法則 足関節小テスト		
第 2 8 回	授業を通じての到達目標	脊柱について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習：脊柱の骨・関節・靱 帯の名称の暗記
	各コマにおける授業予定	脊柱2：関節運動に関わる骨、関節の構造、関節包内運動、凹凸の 法則		
第 2 9 回	授業を通じての到達目標	脊柱の動きについて学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	復習：椎間関節の動き
	各コマにおける授業予定	脊柱3：脊柱の運動学		
第 3 0 回	授業を通じての到達目標	脊柱の筋について学び、その構造を理解し、説明できるようになる	PC・PP 骨模型・テープ	予習：脊柱の筋
	各コマにおける授業予定	脊柱4：筋と関節の相互作用		